

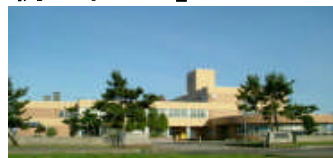
平成29年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

1 報告地区：渡島地区

2 事例報告学校名：長万部町立長万部小学校

3 報告者：校長 長瀬 雅一

4 キーワード：「特別の教科 道徳」の質的転換を通じた授業改善



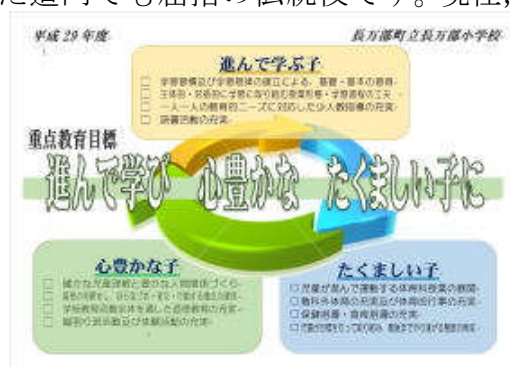
1 はじめに

長万部町は、渡島管内の北部、後志、胆振、檜山に接していて、自然豊かな丘陵地と山地が広がり、平地は噴火湾に沿って南北に伸び、海岸からは、羊蹄山、有珠山、駒ヶ岳を一望できます。以前は、交通の要衝として栄えていたが、国鉄の民営化、社会や産業構造の変化と共に地域経済基盤が変化、住民の町外流出により高齢者の人口に占める割合が多く、現在は、5500人ほどの人口になっています。

2030年には、新幹線が開業する予定であり、室蘭、苫小牧方面、ニセコ、小樽方面の分岐点として再び町の活性化に結び付くことが期待されています。

本校は、明治11年に開校し、今年139年を迎えた道内でも屈指の伝統校です。現在、児童数189名、10学級の中規模校で、保護者の教育に対する関心は高く、協力的です。

日常的に、地元の小・中・高・大（東京理科大）との乗り入れ授業等連携が密です。今年度10月より、長万部町の小学校2校、中学校1校が一体となり、学校運営協議会制度いわゆるコミュニティ・スクールがスタートし、社会に開かれた教育課程の充実に向け邁進しています。



2 心豊かな子をめざした道徳教育の推進

研究主題

「豊かなかかわりを通して自己を見つめ よりよく生きようとする子供の育成」

～共に考え、議論する授業の実践を通して～

(1) 主体的・対話的で深い学びの授業改善

本校の分掌の1つである学力向上推進部、道徳教育推進教師が中心となり、研究授業についても、着飾った特別な授業の構築ではなく、日常的な授業、いわゆる味噌汁ご飯授業の改善を目指しています。

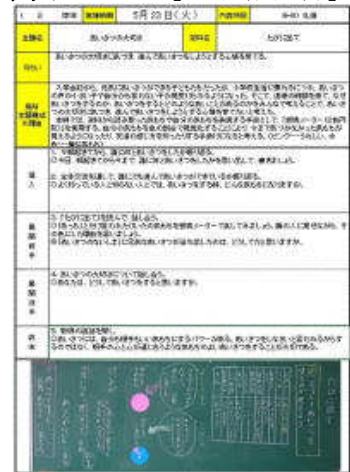
まず、児童の実態を把握、課題を明確にするため、長万部町教育研究所、中1ギャップ未然防止連絡協議会との連携も図りながら「ほっと」、学校独自の児童、保護者アンケートを実施しました。そこから、本校の児童は、素直で明るく、落ち着いた学校生活を送っているその一方で、自分の身の回りに問題や課題があるときに、解決方法を考え進んで行動することを苦手としていることが見えてきました。全国学力・学習状況調査の児童質問紙からも困難なことに挑戦することや、自己肯定感が低い傾向があることがわかりました。本研究を通して、本校児童に「道徳性」を養う上で、児童の豊かなかかわりの中から自己の考えを深め、様々な物事に対して意欲的、主体的に取り組もうとする等のよりよく生きようとする姿勢を育成していく必要があると考えました。

(2) アーカイブの活用, 提案授業の実施 質の高い指導方法の例示

【実践報告書】

道徳の教科化に向けて何が変わるのか、何が変わらないのかを協議しつつ、道徳教育アーカイブ、先進的授業事例を活用し、授業の流れ、板書、発問の工夫場面等を共有化できたことは大変有効で、有意義でありました。

また、管理職が、校長会・教育局等の資料を用い、①読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習。②問題解決的な学習。③道徳的行為に関する体験的な学習。についてのミニ研修、模擬授業等を行い議論し目指すべき道徳科の学習の姿の共通理解を図りました。



(3) 提案授業, 全員授業, 授業研, 全学級道徳参観日

研究部長、道徳教育推進教師が授業を提案授業を行い、前項で共通理解を図った部分を確認したのち、板書の写真も収めた「実践報告書」により教師それぞれの日常的な道徳科の授業の「見える化」を試みました。2年生、6年生の授業研では、「親切、思いやり」の授業を行い、「これからみんなのことを考えて生活したい。」「相手の状況に合わせて思いやり親切にする。」等、自己の生き方についての考えを深め、これからの生活に生かそうとする心情も芽生えてきました。



【6年生 道徳科】

【2年 道徳科】

【アーカイブの活用研修】

(4) 他教科等との関わり～小中高連携・ふるさと教育・食育を通して～

中1ギャップ問題未然防止事業推進校として、町内小中高の児童会・生徒会が一堂に会し、「長万部町いじめ撲滅宣言」を行う等、様々な校種間連携を行いました。また、北海道ふるさと教育・観光教育等推進事業協力校として、シャクシャインの戦いの地である本町を題材に、道教委や長万部アイヌ協会のゲストティーチャーを招聘しアイヌについて学ぶことができました。さらに、栄養教諭により、食育との関わりの中で、食事への感謝と自分との関わりについての道徳科の授業を行いました。

3 おわりに

道徳科に限らず「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が、今一番の課題です。学習活動として行う道徳科は、道徳教育の目標に基づき、各教科等の関連を図りながら道徳性を養うことが求められています。授業改善に伴い評価の在り方や重要性も増してきます。教師が確かな指導観をもち、教師と児童との日常的な触れ合い、信頼関係が築かれている学級経営が評価の基盤であると思います。今後、答えが一つではない道徳的な課題に対してどう評価していくか等、具体的な在り方について、全職員が組織として協働して研修を深め、授業改善、学校力向上を目指していきます。